

## 富山県におけるヒカリゴケの分布

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-11-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山岡, 正尾, Yamaoka, Masao メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24517/00056082">https://doi.org/10.24517/00056082</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



## 山岡正尾\*：富山県におけるヒカリゴケの分布

Masao YAMAOKA : Distribution of *Schistostega pennata* (HEDW.)  
HOOK. et TAYL. in Toyama Prefecture, Japan

富山県のヒカリゴケ *Schistostega pennata* (HEDW.) HOOK. et TAYL. は、立山山麓で1940年に筆者が初めて確認し、報告した(山岡, 1941)。当時、この産地は我が国の本州日本海側での有数の生育地であると言われていた。1948年には筆者の報告に基づき富山県指定天然記念物に指定された。筆者が初めて名付けた「立山山麓光藓発生地」という呼称は、そのまま今日に至っている。

本州の日本海側では、HORIKAWA (1955) による石川県白山のGorinzaka~Hinokiyado (July 14, 48. 1600~1300m) の報告などがあるに過ぎない。

以来、富山県の立山・剣岳を水源とする常願寺川及び黒部川水系の山岳地帯や山麓地での生育が、本多啓七・佐藤武彦らにより逐次報告され、現在では9箇所となった。

これらの生育地は県東部に集中しており、県西部には、今のところ全く確認されていない。

なお、これらの生育地は、これまでの主要文献、例えばHORIKAWA (1972, 日本植物分布図譜 I) や A. L. ABRAMOVA ら (1974, 世界のヒカリゴケ分布図) などには、ほとんど記載されていないように思われる。

次に、これら9箇所の生育地につき関係事項を略記したい。各項の記述で a—所在地名及びおおその緯度・経度, b—標高, c—発見(報告)者名, d—発見(報告)年月日, e—生育地の状況等とする。また、これらについて記述のある文献を参考文献として末尾にあげた。

### 1. 八郎坂の富山県指定天然記念物「立山山麓光藓発生地」

a 富山県中新川郡立山町<sup>なかにいかわ</sup>芦峯寺外<sup>あしろうじ</sup>一字ブナ坂外十一国有林(称名坂)10い林道両側五間宛。通称八郎坂。36°34'N.。137°31'E.。

b 1200~1700m。

c 山岡正尾。

d 1940年8月15日。

e 立山火山の噴出物—安山岩等の巨岩・岩屑の累積による洞穴や岩隙、そこの湿り気を帯びた岩石表面や僅かに堆積した土壤表面に原糸体が生育する。土壤はpH5.3~5.5で弱酸性腐植質、黒または黒

褐色。生育面の照度は5~8ルクス。洞穴外の近辺には葉状体の叢生・単生が多く見られる。被包植物は、スギ・コメツガ・ブナ・ヤハズハンノキ等の高層木、ユキグニミツバツツジ・ホツツジ等の中・下層木。下生えにはイワカガミ・シシガシラ等多種類が見られる。また藓類数種が生育する。

近年、生育地の立地条件に著しい変化を来したらしく、とりわけ高木の自然倒木・伐採、かけ崩れ、人為的損傷等のためか、ヒカリゴケの生育状況が往年に比べ著しく衰微したかに見える。好環境の保全が望まれる。

### 2. 黒部川上流(黒部奥山)の宇奈月町指定天然記念物「仙人谷の仙人岩屋」

a 富山県下新川郡宇奈月町黒部奥山国有林四〇イ林小斑。36°39'N.。137°40'E.。

b 1580m。

c 本多啓七。

d 1948年(夏)

e この岩屋は巨大岩石に覆われてできた洞窟で、ほぼ人工的なもの。東北東の縦軸方向長さ7m、横軸方向長さ3m、高さ1.5~1.8m。峡谷に面して幅0.9mの入り口がある。糸状体の生育面積3平方m。内部照度5ルクス。底部土質は砂質壤土、色は茶褐色。周辺の植物はミズナラ・ブナ等の高木、マルバマンサク・ノリウツギ・ナナカマド等の中・低木類。アカソ・ヤマヨモギ・ミヤマシシウドなどの高茎・広葉草本群落が発達している。

### 3. 立山弥陀ヶ原の「美松坂」

a 富山県中新川郡立山町芦峯寺外一字ブナ坂外十一国有林。36°35'N.。137°35'E.。

b 2300m。

c 山岡正尾。

d 1957年8月9日。

e ここは立山噴火外輪山の外側北斜面。被包植物はダケカンバ・シラビソ・アオモリトドマツなどの高木、ミネザクラ・ベニバナイチゴ・シャクナゲ・ウラジロナナカマド等の中・低木。草本にはキヌガサソウ・エンレイソウ・オオバユキザサ・サンカヨウ・コバイケイソウなど。数種の藓類があり、生

\* 〒939-05 富山県富山市水橋中村416; Mizuhashi-Nakamura 416, Toyama-city. 939-05, Japan

育度は極めて大である。

4. 称名川上流(立山)の称名峡の「下廊下の左岸」

- a 前項と同一の国有林内。36°35'N。137°32'E。
- b 1400~1500m。
- c 本多啓七。
- d 1961年5月27日。
- e ここは称名滝の上流, 称名川のV字峡の川岸。コメツガ林の林床にある洞穴状の累積岩のすき間などに生育する。

5. 黒部川上流(黒部奥山)の黒部峡谷の「ケツワリ坂」

- a 富山県下新川郡宇奈月町黒部奥山国有林四〇イ林小班。36°39'N。137°40'E。
- b 1000~1200m。
- c 本多啓七。
- d 1949年7月23日。
- e さきに述べた「仙人谷の仙人岩屋」への登山路の途中にあり, 植物相も類似する。ヒカリゴケの生育は, 急坂の岩隙などである。

6. 大山町の「常願寺川左岸の断崖の洞窟」

- a 富山県上新川郡大山町大川寺。36°36'N。137°19'E。
- b 120m。
- c 佐藤武彦。
- d 1985年6月18日。
- e ここは, 常願寺川左岸の川岸にそそり立つ数10mの断崖の基部に穿たれた人工の古い洞窟。入り口は川原面から約1mの高さにあり, 幅約1.3m, 高さ約2m。入り口から約4mの所の約0.8平方mが光る糸原体の生育面である。地層は凝灰岩質砂岩から成り, 洞窟地表面は黒褐色の砂で軽石や火山灰が混入している。

7. 立山弥陀ヶ原の「獅子ヶ鼻の役の行者窟」

- a 富山県中新川郡立山町芦峯寺外一字ブナ坂外十一国有林。36°35'N。137°34'E。
- b 1950m。
- c 佐藤武彦。
- d 1986年7月27日。
- e 往古, 立山信仰の修験者たちゆかりの洞窟が, 立山には数多く残っている。自然にできたものが多い。今は内部に石仏を安置し信仰の面影を留めている。この洞窟も, そんな洞窟の一つ。ヒカリゴケは石仏の台座の石のすき間など僅かの部分に光っている。洞窟周辺の植物は, ヤバズハンノキ・ダケカンバ・コメツガ・アオモリトドマツなどの高木, マル



富山県のヒカリゴケ生育地分布図

1. 立山山麓光藓発生地, 2. 仙人谷の仙人岩屋,
3. 美松坂, 4. 下廊下の左岸, 5. ケツワリ坂,
6. 常願寺川左岸の断崖の洞窟, 7. 獅子ヶ鼻の役の行者窟,
8. 室堂平の虚空蔵窟, 9. 室堂平の玉殿(窟)岩屋 (1986年12月現在)

バダケブキ・シラネアオイ・キヌガサソウ・ホソバトリカブトなどの高茎草本が茂る。岩はだのあらわな所には, ミヤマホツツジ・ハクサンオミナエシなどがみられる。

8. 立山の「室堂平の虚空蔵窟」

- a 前項と同一の国有林。36°35'N。137°37'E。
- b 2440m。
- c 佐藤武彦。
- d 1986年8月9日。
- e 室堂平の東北端の断崖の中程にあり, 立山火山の噴火(約5万年前)による溶岩流によってできた自然の洞窟である。入り口幅約5m, 奥行きもほぼ同じだが次第に狭くなっている。高さは入り口で約2m。内部は巨岩や岩屑が散乱していて, その程よい所に石仏が安置され, 仏具等が置かれている。原糸体の光りは, 所々に僅かに認め得る程度で, 生育度は低い。時々行われるらしい石仏・仏具の移動や清掃のため, ヒカリゴケの生育面が破壊されるらしい。洞窟周辺の植物には, 洞窟を覆うような高木はない。ベニバナイチゴ・小さなミヤマハンノキ等の木本, コバイケイソウ・ウラジロタデ等の高茎草本が目につく。岩盤の割れ目などにはミヤマダイコンソウ・ミヤマヌカボ。岩屑砂礫地にはミヤマアキノキリンソウ・ミヤマガラシ・イワツメクサ等が生育する。

9. 立山の「室堂平の玉殿(窟)岩屋」

- a~d 前項8と同じ。両者は隣接している。
- e 入り口幅約2m。奥行き約6m。高さは奥の方

も高く約2m。内部は暗い。ヒカリゴケは、入り口近くの岩盤上に薄く附着した土壌面に生育し光っている。生育面は0.08平方m。同じ所に葉状体も生えている。1箇所だけである。周辺の植物相等は前項8のものと同じである。

#### 参 考 文 献

- ABRAMOVA, A. L. and BLAGODATSKICH, L. S. 1974. *Schistostega pennata* (HEDW.) WEB. et MOHR in Vicinitate Magdem inventa. Novitates Systematicae Plantarum vom Vascularium Tom XI: 317-320.
- 文化庁. 1973. 天然記念物緊急調査・植生図・主要動植物地図, 16 富山県. 62pp. 文化庁, 東京.
- HORIKAWA, Y. 1955. Distributional Studies of Bryophytes in Japan and the Adjacent Regions. *Hikobia*. 152pp. Hiroshima, Japan.
- ・1972. Atlas of the Japanese Flora I. an introduction to plant sociology of East Asia. 500pp. Gakken Co., Tokyo, Japan.
- 本多啓七. 1948. 劔岳の植物分布について. 魚津高校山岳部報 1: 2-5.
- ・1976. 「ヒカリゴケ」. 富山県大百科事典. 998pp. 富山新聞社, 富山.
- 進野久五郎. 1962. 立山の植物. 立山と黒部, 富山県郷土史会叢書 7. 234pp. 富山郷土史会, 富山.
- ・1976. 「たてやまさんろくヒカリゴケはっせいち」. 富山県大百科事典. 998pp. 富山新聞社, 富山.
- 富山県. 1948. 天然記念物立山山麓光藓発生地. 富山県指定天然記念物. 富山県報. 1579. 富山県告示 No. 133 : 228-229.
- 富山県教育委員会. 1962. 立山山麓光藓発生地. 富山県の文化財—指定一覧 30-31. 45pp. 富山県教育委員会, 富山.
- ・1965. 天然記念物立山山麓ひかりごけ発生地. 富山県報 (号外) 富山県教育委員会告示 1: 1.
- ・1966. 立山山麓ひかりごけ発生地. 図説富山県の文化財—県指定編 180-181. 222. 233pp. 富山県教育委員会, 富山.
- ・1974. 立山山麓ひかりごけ発生地. 富山県文化財保護の手引き 140. 350pp. 富山県教育委員会, 富山.
- ・1984. 立山山麓ひかりごけ発生地. 富山県の文化財 215, 268. 278pp. (財)富山県文化振興財団, 富山.
- 立山町文化財調査保護委員会. 1965. 八郎坂 (称名坂) ルートと光藓. 立山の文化 3: 47.
- ・1966. 県指定天然記念物—光藓発生地. 立山

の文化 6: 83.

- 宇奈月町史編纂委員会. 1969. 仙人岩付近の植物—岩穴のヒカリゴケ. 宇奈月町史129-130. 1067pp. 宇奈月町役場, 宇奈月町.
- 山岡正尾. 1941. 立山山麓光藓発生地. 富山県師範学校校友会誌 33: 9-21.
- ・1950. 富山県のヒカリゴケ生育地. 採集と飼育 12 (7): 200-202.
- ・1955. 立山のヒカリゴケ—高度を増したその生育上限. 植物趣味 20 (3): 28-29.
- ・1959. 「ひかりごけ」というもの. 富山教育 (富山県教育会) No. 465: 12-15.
- ・1965. 「ひかりごけ」というもの. 立山の文化 (立山町文化財調査保護委員会) 3: 34-37.
- ・1986. 富山県内のヒカリゴケ生育地 I. 富山県植物友の会誌 27: 24-36.
- ・1987. 富山県内のヒカリゴケ生育地 II. 富山県植物友の会誌 28: 9-29.
- ・1987. 富山県内のヒカリゴケ生育地 9 箇所—その概要. 富山県生物学会誌 26: 91-99.

#### Summary

In 1940, YAMAOKA found and reported *Schistostega pennata* (HEDW.) HOOK. et TAYL. growing in Hachirozaka at the foot of Mt. Tateyama. This was the first report of the growing site of this species in Toyama Prefecture. To date, nine growing sites have been reported.

These growing sites are distributed in the eastern part of Toyama Prefecture at the altitudes of 120-2440m above sea level, 36°34'-36°39'N. in latitude and 137°19'-137°40'E. in longitude.

1. Mt. Tateyama, Hachirozaka. (YAMAOKA, M. 1940, 1200-1700m. 36°34'N., 137°31'E.)
2. Kurobe-okuyama, Sennin-iwaya, (HONDA, K. 1948, 1580m. 36°39'N., 137°40'E.)
3. Mt. Tateyama, Midagahara-Mimatuzaka. (YAMAOKA, M. 1957, 2300m. 36°35'N., 137°35'E.)
4. Mt. Tateyama, Syomyo-River said. (HONDA, K. 1961, 1400-1500m. 36°35'N., 137°32'E.)
5. Kurobe-okuyama, Ketuwarizaka. (HONDA, K. 1949, 36°39'N., 137°40'E.)
6. Ohoyama-machi, Jyoganzi-River side. (SATO, T. 1985, 120m. 36°36'N., 137°19'E.)
7. Mt. Tateyama, Midagahara-Shishigahana. (SATO, T. 1986, 1950m. 36°35'N., 137°34'E.)
8. Mt. Tateyama, Murododaira-Kokuzokutu. (SATO, T. 1986, 2440m. 36°35'N., 137°37'E.)

9. Mt. Tateyama, Murododaira-Tamadono-  
iwaya. (SATO, T. 1986, 2440m. 36°35'N., 137°37'  
E.)

(Received June 23, 1987)

○ ステコビルを越前で発見 (渡辺定路\*) Sadamichi WATANABE\*: *Caloscordum inutile* (MAKINO) OKUYAMA et KITAGAWA Found in Echizen, Fukui Prefecture.

ステコビルは、明治29年(1886)に、名倉闇一郎が愛知県石巻山で採集したものに、牧野富太郎が *Allium inutile* MAKINO の名で発表し、はじめて世に出た種類である。その後、産地が加えられ、茨城・岐阜・京都・広島などの諸県で見つけられたが、いづれも太平洋側であり、日本海側では、未だ知られていない。

私は、昭和62年9月23日 (1987)。福井県丹生郡越前町の急斜面の落葉樹林 (エノキ・コナラ・アベマキ・ナ



写真1 写真上は群生するステコビル、写真下はその一部